

## ブラジルで大火災！ - 西日本防災システム

2013 09 26

9月24日ブラジル、サンタ・カタリーナ州サンフランシスコ・ド・スル市で午後11時頃、グローバル・ロジスティカ社の所有する倉庫内の肥料から出火して大火災となり、大量の有毒ガスが周辺の上空を覆ったようです。消防隊、陸軍、海軍、環境警察隊など総勢200人体制で消火活動を行っているようですが、出火30時間経過してもまだ鎮火していないそうです。地元紙によりますと、燃焼を止めるためには倉庫内の肥料を外へ出す必要があるため、消防隊は巨大な換気扇を使って倉庫付近のガスを散らす試みが続けているそうです。

消防隊員2人が煙を大量に吸い込んだため病院に搬送されましたが、命に別状はないようです。

燃え続けている肥料は倉庫内から外に向かって激しい炎を発生しているようです。倉庫にはアンモニアを原料とする肥料1万トンが保管されていましたが、25日夜までに搬出できたのはそのうちわずか10%程度だったようです。数台の換気扇のほか、燃焼反応によって発生した倉庫内の水を排出する装置がパラナ州パラナグアー市から運ばれ、到着後使用されているそうです。

燃焼により発生した有毒ガスを含む煙は周辺地域に影響を及ぼしているようです。この煙はパラナ州にも到達しているようですが、サンパウロ州海岸地域にまで届く可能性があると考えられているそうです。煙の主な成分は硝酸アンモニウム、塩化カリウム、リン酸水素二アンモニウムなどで、皮膚や呼吸器官に強い刺激を与える可能性もあるようです。

サンフランシスコ・ド・スル市役所は26日未明に、風の向きが変わり海岸地域に向かって煙が広がっていることを発表したそうです。市のボランティア消防隊によると国道沿いの住民の多くが一時避難しているほか、少なくとも70人に中毒症状が確認されて病院に搬送されたことが判明しているそうです。同日午前市役所は海岸地域のエンセアータ区の学校を避難所として開放し、避難した住民を受け入れる態勢を整えたようです。さらに25日のうちに老人ホームからの高齢者グループ40人を含む合計80人が、州立サンタ・カタリーナ校に設置された避難所へ避難したそうです。

大量の煙を吸って中毒症状などを起こした患者115人は、市内やジョインヴィレ市の病院に運ばれているそうです。

住民の中には、16キロ離れたアラクアリ市や22キロ離れたジョインヴィレ市の親戚などの家に身を寄せようとした人もたくさんおり、市外へと向かう車の列は、25日11時現在で4キロの大渋滞となっているようです。

早く鎮火しますようお祈りいたしております。



西日本防災システム

NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ 